

寒冷地果樹研究会プログラム

I タイムテーブル

分科会等の開催時間と場所

分科会等名称	開催日時	2月12日(水)		2月13日(木)	
		午前	午後	午前	午後
開会挨拶	2月12日 9:50 ~ 10:00	【公開】 ↔ 1階大ホール			
1. 全体会議	2月12日 10:00 ~ 12:00	↔ 1階大ホール			
2. 栽培分科会	2月12日 13:00 ~ 17:00		【公開】 ↔ ダイヤモンド		
	2月13日 9:00 ~ 12:00			【公開】 ↔ ダイヤモンド	
3. 病害分科会	2月12日 13:00 ~ 17:00 (話題提供)		【公開】 ↔ エメラルド		
	2月13日 9:00 ~ 12:00 (成績検討)			【非公開】 ↔ エメラルド	
4. 虫害分科会	2月12日 13:00 ~ 17:00 (話題提供)		【公開】 ↔ 瑞雲		
	2月13日 9:00 ~ 12:00 (成績検討)			【非公開】 ↔ 瑞雲	
5. 土壌・肥料分科会	2月13日 9:00 ~ 12:00 (話題提供)			【公開】 ↔ 桐華	

注1) 寒冷地果樹研究会と並行して、「果樹・茶系統適応性検定試験成績検討会(寒冷地果樹)【非公開】」を開催します。

注2) 【非公開】の会議への参加者は、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関の研究者、農林水産省の関係者、主催者が認める者に限ります。

会場の割り振りは予定です。当日変更の可能性もありますので、当日の張り紙等でご確認下さい。

II 全体会議及び分科会の内容

1. 全体会議「リンゴの消費拡大を考える」

令和2年2月12日（水）10：00～12：00【公開】

【趣旨】

我が国の少子高齢化や嗜好の多様化により、リンゴの生産量は減少傾向にある。報道によると令和元年度の適正出荷量は72万トンとされている。堅調なリンゴの輸出はリンゴ生産量の維持にとって重要な要素であるが、国内消費についても消費拡大に向けた方策を検討する必要がある。特に国内生産リンゴは90%近くが生食用であることから、生食用以外の部分に拡大できる余地があると考えられる。そこで、我が国の生食用リンゴを支えてきた'ふじ'が80年を迎えるに際し、国産リンゴ消費拡大について改めて検討を行いたい。特に、新たな加工料理用途や販売形態など、リンゴの消費拡大戦略について検討を行う。

【話題提供】

- 1) リンゴ産業の未来展望～ふじ80年を迎えて～

農研機構果樹茶業研究部門 別所英男

- 2) 果実加工の現状と消費拡大を目指した将来方向

一般社団法人 長野県農村工業研究所
農業開発研究部 滝沢 潤

- 3) 近年における果実消費の傾向と消費拡大の取組

株式会社九州屋商品本部 牧野智弘

* 全体会議にてご発表いただいた内容は開示された扱いとなりますので、特許等の知財を取得予定の場合には、あらかじめその旨ご承知下さい。 話題提供者には、資料の作成及び提出について農研機構担当者より別途連絡いたします。

2. 栽培分科会「リンゴの着果管理の現状と課題」

令和2年2月12日（水）13：00～17：00【公開（以下の話題を提供）】

令和2年2月13日（木）9：00～12：00【公開（各県の成果の紹介）】

【趣旨】

着果量の調節は、当年の果実品質や生産量を定めるだけでなく、翌年の花芽着生や果実品質にも影響を及ぼすことから、リンゴ栽培の中で最も重要な作業と言っても過言ではない。一定の品質の果実を毎年安定して生産するためには、摘果時期や着果負担程度を厳密に規定する必要がある。一方、労働力不足の中でリンゴの年間作業の1/4を占める着果管理作業を期日までに終わらせることはますます難しくなっており、リンゴ栽培の放棄につながる深刻な状況にもなりつつある。

そこで、結実に影響を及ぼす要因と、高品質安定生産に寄与する適正着果量の考え方を整理するとともに、省力的な着果管理の最近の取り組みを紹介し、今後の着果管理のあり方について議論する。

【話題提供】

- 1) 結実管理および着果管理に関する青森県での取り組み

青森県産業技術センターりんご研究所 小林 達

2) リンゴの高密度植栽培における着果管理の省力化

長野県果樹試験場 檜本 克樹

3) 摘花剤の種類と散布時期の検討

農研機構果樹茶業研究部門 守谷 友紀

4) 薬剤摘果の精密化の可能性について

農研機構果樹茶業研究部門 岩波 宏

5) 花粉採取用花蕾採取機のリンゴ、モモにおける摘蕾作業への適応性拡大

農研機構革新工学センター 深井 智子

- * 【公開】の分科会にてご発表いただいた内容は開示された扱いとなりますので、特許等の知財を取得予定の場合には、あらかじめその旨ご承知下さい。
- * 栽培分科会で使用する資料の作成及び提出については、農研機構担当者より別途連絡いたします。

3. 病害分科会「リンゴ黒星病における薬剤耐性菌対策の現状と今後の課題」

令和2年2月12日(水) 13:00~17:00【公開(以下の話題を提供)】

令和2年2月13日(木) 9:00~12:00【非公開(成績検討)】

【趣旨】

平成28年の国内最大のリンゴ生産地である青森県津軽地方におけるDMI剤およびQoI剤耐性菌の広域発生確認は、日本の長いリンゴ病害防除史上における一大事件であった。爾来、青森県では平成29年、30年とリンゴ黒星病の多発傾向が継続し、薬剤耐性黒星病菌は県下全域で確認される事態となっている。また、DMI剤やQoI剤に対する感受性が低下した黒星病菌は北海道、長野県、秋田県、山形県等でも確認されており、それぞれの県の発生状況に応じた防除対策がとられているところである。幸い、令和元年度は、山形県を除いて黒星病の発生は少なく、大きな問題にはならなかったが、小雨等の気象条件に助けられた側面が否めず、決して黒星病の脅威が低下したわけではない。

そこで、本分科会では、耐性菌の遺伝子診断や各県における薬剤耐性菌対策の現状について話題提供を受けて今後の課題を整理し、防除対策の一助とする。

【話題提供】

1) 青森県における薬剤耐性リンゴ黒星病菌対策の現状と今後の課題(仮)

(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所 平山 和幸

2) 秋田県における薬剤耐性リンゴ黒星病菌対策の現状と今後の課題(仮)

秋田県果樹試験場 佐藤 裕

3) 山形県における薬剤耐性リンゴ黒星病菌対策の現状と今後の課題(仮)

山形県農業総合研究センター 佐藤 健治

4) 長野県における薬剤耐性リンゴ黒星病菌対策の現状と今後の課題(仮)

長野県果樹試験場 近藤 賢一

5) 薬剤耐性リンゴ黒星病菌の遺伝子診断(仮)

6) 総合討論

- * 【公開】の分科会にてご発表いただいた内容は開示された扱いとなりますので、特許等の知財を取得予定の場合には、あらかじめその旨ご承知下さい。話題提供者には、資料の作成及び提出について農研機構担当者より別途連絡いたします。
- * 話題提供の課題名及び演者は変更となる場合があります。
- * 【非公開】の会議への参加者は、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関の研究者、農林水産省の関係者、主催者が認める者に限ります。
- * 病害分科会における【非公開】の会議(成績検討会)に使用する資料は、別途連絡の「令和元年度果樹茶業試験研究成績概要の原稿の作成・提出及び配付申込要領」にしたがって作成し、E-mailで農研機構果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室推進チーム(kikaku-fruit07@naro.affrc.go.jp)まで提出して下さい。資料原稿の提出期限は、令和2年1月9日(木)必着です。

4. 虫害分科会「近年問題化している寒冷地果樹害虫の発生状況と防除対策」

令和2年2月12日(水) 13:30~17:00 【公開(以下の話題を提供)】

令和2年2月13日(木) 9:00~12:00 【非公開(成績検討)】

【趣旨】

近年、寒冷地果樹栽培を取り巻く環境が大きく変化し、栽培管理で問題となる害虫も多様化している。このような状況で、防除体系の変化、気候変動などの要因により、新たな害虫種の発生や分布拡大、また、問題が顕在化していなかった害虫種の発生報告例が増加しており、それらへの対策が求められている。そこで、本分科会では、寒冷地果樹において近年問題化している害虫の発生状況と防除対策について話題提供し、関係者間における情報共有と今後の研究方向について議論を深める。

【話題提供者】

- 1) 青森県で近年、発生が見られるマイナー害虫について
(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所 木村 佳子
 - 2) 秋田県のセイヨウナシにおけるセイヨウナシハモグリダニ(仮称)の被害状況と防除対策
秋田県果樹試験場天王分場班 小松 美千代
 - 3) 山形県のセイヨウナシにおけるセイヨウナシハモグリダニの発生状況(仮称)と防除対策
山形県農業総合研究センター園芸試験場 伊藤 慎一
山形県病害虫防除所庄内支所 五十嵐 美穂
 - 4) 福島県における近年問題化している寒冷地果樹害虫の発生状況と防除対策
福島県農業総合センター果樹研究所 吉田 昂樹
 - 5) 長野県で近年問題化している寒冷地果樹害虫の発生状況と防除対策
長野県 果樹試験場 石井 伸洋
- #### 6) 総合討論

- * 【公開】の分科会にてご発表いただいた内容は開示された扱いとなりますので、特許等の知財を取得予定の場合には、あらかじめその旨ご承知下さい。

- * **【非公開】**の会議への参加者は、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関の研究者、農林水産省の関係者、主催者が認める者に限ります。
- * 虫害分科会に使用する資料の作成及び提出については、農研機構担当者より別途連絡いたします。

5. 土壌・肥料分科会「リンゴの窒素施肥管理と寒冷地果樹での有機肥料の利用」

令和2年2月13日（金）9：00～12：00【公開】

【趣旨】

地球温暖化に伴う気温上昇は寒冷地果樹の生育や果実品質に直接的に影響を与えるだけでなく、土壌及び肥料からの窒素の無機化を促進させることで、果樹生育に間接的にも影響する可能性がある。そこで、リンゴでは温暖化に対応した窒素施肥技術について、さらに温暖化により肥効が変化することが懸念される有機肥料の効果について話題提供頂くとともに、今後の研究方向について議論を深める。

【話題提供者】

- 1) リンゴの着色障害に対応した窒素施肥技術の開発（仮題）
農研機構果樹茶業研究部門 井上 博道
- 2) 温暖地におけるリンゴの窒素施肥時期と果実着色への影響（仮題）
長野県果樹試験場 土田 河
- 3) オウトウの生育に対するヒマシ油粕の施用効果（仮題）
山形県農業総合研究センター園芸試験場 安藤 隆之

- * 【公開】の分科会にてご発表いただいた内容は開示された扱いとなりますので、特許等の知財を取得予定の場合には、あらかじめその旨ご承知下さい。